

(株)サンニクス 2020年3月期第2四半期決算説明会・記者会見概要

日時：2019年11月14日 13:30～14:30

場所：アーバンネット大手町ビル 21階 LEVEL XXI 東京会館

代表取締役社長 宗政 寛

太陽光発電の販売・設置を手掛けてきたが、今後は蓄電池もやりたいと思っている。FIT価格が下がったことで、電気を作るコストと購入する電気代の差がなくなってきたので、新規のお客様、既に太陽光をつけられているお客様のどちらにも蓄電池は受入れられると思っている。

廃プラスチックを20年ほど扱ってきた。苫小牧の発電所を本当にしっかりした発電所として整備し、マザー工場*という形にして、もうひとつ、ふたつと増やすことを検討している。

我々は今まで自前でやってきたが、この数年、HS、ES、SEについては、色んな会社と提携によって実績も少しずつ出てきた。三菱自動車や農協の話もあり、もうひとつ加速させて提携関係を拡大していこうと考えている。

人を育てていかないと、会社も育たない。今年に入り100人くらい新卒・中途の採用をしてきた。今年、研修等しながら、社員を育て、レベルも上げていこうと思って取り組んでいる。

当社には「仕事が教育で、教育が経営である」という経営理念がある。しっかりした社員を育て、一緒に成長できる会社にならなければならないと思っている。そこはとても大事にしていきたい。

*マザー工場・・・新しい工場を建設する際に、生産システムや生産技術などのモデルとなる工場。

(以下、記者会見、決算説明会での質疑応答の一部。)

Q： SEについて、価格は下がり、施工容量が伸びたのはどのような背景か。

A： これまでマーケットは減少傾向にあったが、直近1年くらいは下げ止まりが見られ、当社においても、営業に注力することで施工容量は増えた。また単価は、FIT価格自体が下がっているのも、それに対応する単価に設定している。単価が下がった分、減収となった。

Q： SEは減収だが、営業利益は前年同期比439.4%増の理由は。

A： 理由は2つある。1つは材料費。パネルは中国の子会社から仕入れているが世界的に価格が低下している。2つ目は固定費。ここ数年、社内での人員異動を行っている。主にはSEからHS・ESへの異動であるためコストが下がっている。

Q： 上期のプラスチックの受入数量が下がった要因は。

A： 昨年9月に起きた北海道の地震で、9月から3月まで約半年間止まっていた。その間、受け入れたプラスチックの燃料を、発電所横のストックヤードに保管している。半年間貯め続けたため、通常と比

べても約 2 倍強の在庫がある。そのため、よりプラスチック燃料に適したプラスチックを受け入れるための精査を行っており、受入量が下がっている。

Q： 「苫小牧をマザー工場にしてもう一つ建てたい」というのは、発電所を建設するというメッセージで捉えていいのか。

A： やってみたいと思っている。まずは、今の発電所をしっかりとってから。

以上